

青い空の下で

南風原町立翔南小学校三年 神里 碧良

空の色は青と白
とってもいい天気

見上げれば
空いっぱい
こいのぼりが
楽しそうに泳いでいる

鳥の鳴き声 なみの音
とってもいい気持ち

見わたせば
公園いっぱい
みんなが
え顔であそんでいる

そのよこに
せんそうでなくなった人の名前が
たくさんあった
おきなわの人だけでなく
ほっかいどうの人も
他のけんの人も
日本人だけでなく
外国の人の名前も
えい語で
たくさん書かれていた

それを見て
ぼくは
もうぜったいせんそうをしたくない
しないでほしいと思った

一年生のときのことを思い出した
ぼくはお母さんに

「なんで神様がいるのにせんそうがあるの」と聞いた

二年たってぼくは思う
神様がせんそうを止めるのではなく
人間がせんそうを止めるのだと

せんそうを起こすのは人間
せんそうを止めるのも人間
せんそうをしないのも人間

人間にはじゅみょうがある
でもせんそうでしぬのは
じゅみょうとはかんけいなく
ころされる
心もない 何も思えない
まっ暗

みんながしぬ
自分が生きても
おとうさん おかあさん
兄弟 いとこ 友だち
大切なだれかがいなくなる

それがぼくには
しんじられない
想ぞうすると
心がくるしくなる

「せんそう」という言葉が
なくなっただけでほしいと思う

青と白の空
楽しそうなこいのぼり
鳥の鳴き声 なみの音
みんなのえ顔

この平和がずっとつづくことを
ぼくは心からねがう
青い空の下で